

研究協力のお願

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

入院関連機能障害の予防に向けた看護介入の考察

1. 研究の対象および研究対象期間

研究対象期間：2024年度9月15日～2024年12月15日迄

研究の対象：上記期間に昭和大学横浜市北部病院の消化器内科で入院された70歳以上、入院期間が1週間以上の患者さんで且つ、Barthel Index (BI) スコアが60点以上の方

2. 研究目的・方法

研究の背景：

超高齢高齢化社会において、病状により入院が必要となった患者さんは、急性期治療による安静臥床が誘因となる日常生活動作が容易に低下する可能性があります。入院関連機能障害とは、直接的には運動障害をきたさない疾患(肺炎、心不全、悪性腫瘍などの)のために入院した時に発症する安静臥床(不働)を原因とした日常生活動作(ADL)低下もしくは身体機能の低下、認知・精神機能低下と定義されます。海外の研究では、70歳以上の高齢の入院患者さんの30～40%程度発症するとされています。そこで、入院関連機能障害の予防的な介入が高齢者の生活の質を維持・向上するためには必要であります。そのため、治療と並行して、患者さんの症状に合わせた日常生活の援助を強化し、リハビリテーションを行い入院前の機能を低下させずに、治療後は住み慣れた在宅に移行することが患者さんにとっても有効であります。また、入院期間が延長することで経済的問題も生じてきます。そのため、リハビリテーションの介入と情報共有、入院生活における日常生活援助を患者さんに合わせた支援を行います。

目的：

当病棟における高齢者の割合は68%であり、内科的治療を受ける高齢者は安静が優先される傾向が強く、また症状や治療による管や点滴による行動制限を強いられる治療を行うこともあります。そのため日常生活動作の低下や入院関連機能障害が問題となっていました。そのため、入院関連機能障害の予防を行うため、リハビリテーションの介入と看護介入を強化し、日常生活動作の維持・向上を図った患者さんを対象に、診療録情報から実態を検討いたします。

3 . 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025 年 6 月 30 日まで

4 . 研究に用いる試料・情報の種類

患者背景（入院日、入院期間、疾患名、治療内容、診療科、年齢、性別、BI 値の推移、看護計画、看護介入の有無、リハビリテーション介入の有無、リハビリテーション介入開始時期、介護区分、挿入物、認知機能、症状）

6 . 研究組織

該当しません。

7 . お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院 7A 病棟

氏名：飯野 美朋

住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話番号：045-949-7000